

## 病理部

## Laboratory of Anatomic Pathology

部 長 (併)	井村 穰二	Johji Imura
特命助教	堀 隆	Takashi Hori
主任臨床検査技師	木屋千恵子	Chieko Kiya
臨床検査技師	浜田 桂司	Keishi Hamada
臨床検査技師	小梶 恵利	Eri Kokaji
臨床検査技師	吉井 智美	Tomomi Yoshii

## ◆ 原 著

- 1) Takahashi T, Nishida T, Baba H, Hatta H, Imura J, Sutoh M, Toyohara S, Hokao R, Watanabe S, Ogawa H, Uehara H, Tsuneyama K. Histopathological characteristics of glutamine synthetase-positive hepatic tumor lesions in a mouse model of spontaneous metabolic syndrome (TSOD mouse). *Mol Clin Oncol*. 2016 Aug; 5(2): 267-70.
- 2) Nishida T, Tsuneyama K, Fujimoto M, Nomoto K, Hayashi S, Miwa S, Nakajima T, Nakanishi Y, Hatta H, Imura J. Aberrant iron metabolism might have an impact on progression of diseases in Tsumura Suzuki obese diabetes mice, a model of spontaneous metabolic syndrome. *Pathol Int*. 2016 Nov; 6(11): 622-8.
- 3) Takikawa A, Mahmood A, Nawaz A, Kado T, Okabe K, Yamamoto S, Aminuddin A, Senda S, Tsuneyama K, Ikutani M, Watanabe Y, Igarashi Y, Nagai Y, Takatsu K, Koizumi K, Imura J, Goda N, Sasahara M, Matsumoto M, Saeki K, Nakagawa T, Fujisaka S, Usui I, Tobe K. HIF-1 $\alpha$  in Myeloid Cells Promotes Adipose Tissue Remodeling Toward Insulin Resistance. *Diabetes*. 2016 Dec; 65(12): 3649-59.
- 4) Ohue Y, Kurose K, Nozawa R, Isobe M, Nishio Y, Tanaka T, Doki Y, Hori T, Fukuoka J, Oka M, Nakayama E. Survival of Lung Adenocarcinoma Patients Predicted from Expression of PD-L1, Galectin-9, and XAGE1 (GAGED2a) on Tumor Cells and Tumor-Infiltrating T Cells. *Cancer Immunol Res*. 2016 Dec; 4(12): 1049-60.
- 5) 本間崇浩, 井村穰二, 山本 優, 外山譲二, 土岐善紀, 芳村直樹. 術中迅速病理診断のための遠隔病理診断ネットワークの構築. *日呼外会誌*. 2016 ; 29(7) : 916-20.

## ◆ 症例報告

- 1) Kato T, Yasuda K, Iida H, Watanabe A, Fujiuchi Y, Miwa S, Imura J, Komiya A. Trousseau's syndrome caused by bladder cancer producing granulocyte colony-stimulating factor and parathyroid hormone-related protein. *Oncol Lett*. 2016 Nov; 12(5): 4214-8.

## ◆ 総 説

- 1) 井村穰二. 腫瘍細胞における様々な脂質代謝異常. *病理と臨床*. 2016 Jun ; 34(6) : 654-6.

## ◆ 学会報告

- 1) Kokaji E, Hori T, Hayashi S, Nakajima T, Miwa S, Imura J. A case of malignant peritoneal mesothelioma diagnosed by EUS-FNA. The 19th International Congress of Cytology; 2016 May 28-Jun 1; Yokohama.
- 2) 吉井智美, 堀 隆, 南坂 尚, 三輪重治, 井村穰二. 左肺門リンパ節の穿刺細胞診 (EBUS-FNA) で腎癌の転移を疑った一例. 第33回日本臨床細胞学会富山県支部学術集会 ; 2016 Mar 5 ; 富山.
- 3) 青島恵子, 加藤輝隆, 井村穰二, 加須屋實. カドミウム腎症における尿・血清中肝臓型脂肪酸結合蛋白質 (L-FABP) 測定の意義. 第27回日本衛生学会総会 ; 2016 Mar 26-28 ; 宮崎.
- 4) 井村穰二, 高木康司, 下村明子, 西田健志, 八田秀樹, 南坂 尚, 中嶋隆彦, 三輪重治, 林 伸一. 高浸潤性膵管癌では IL-32 が浸潤を制御している. 第105回日本病理学会総会 ; 2016 May 12-14 ; 仙台.
- 5) 林 伸一, 三輪重治, 中嶋隆彦, 南坂 尚, 八田秀樹, 西田健志, 井村穰二. 大腸原発の大細胞神経内分泌癌の一例. 第105回日本病理学会総会 ; 2016 May 12-14 ; 仙台.
- 6) 三輪重治, 中嶋隆彦, 林 伸一, 南坂 尚, 八田秀樹, 西田健志, 井村穰二. 小円形細胞腫瘍の組織像を呈した再発性 GIST の一例. 第105回日本病理学会総会 ; 2016 May 12-14 ; 仙台.

- 7) 中嶋隆彦, 南坂 尚, 三輪重治, 林 伸一, 西田健志, 八田秀樹, 井村穰二, 向 宗徳, 野本一博, 増田信二. くも膜下出血後に脾動脈瘤破裂をきたした segmental arterial mediolysis の一例. 第 105 回日本病理学会総会; 2016 May 12-14; 仙台.
- 8) 南坂 尚, 中嶋隆彦, 八田秀樹, 西田健志, 三輪重治, 林 伸一, 小島 勝, 井村穰二. 左上肢神経の走行に沿って進展した末梢神経性 Neurolymphomatosis の一例. 第 105 回日本病理学会総会; 2016 May 12-14; 仙台.
- 9) 八田秀樹, 中嶋隆彦, 常山幸一, 林 伸一, 三輪重治, 南坂 尚, 西田健志, 中西ゆう子, 井村穰二. 免疫染色におけるホウ酸含有緩衝液の有効性—室温放置により抗原性が減弱した標本の賦活法—. 第 105 回日本病理学会総会; 2016 May 12-14; 仙台.
- 10) 西田健志, 常山幸一, 林 伸一, 三輪重治, 中嶋隆彦, 南坂 尚, 八田秀樹, 井村穰二. 肥満・糖尿病マウスを用いた、メタボリックシンドロームに対する地域伝承発酵食品の有効性の検証. 第 105 回日本病理学会総会; 2016 May 12-14; 仙台.
- 11) 小梶恵利, 西田健志, 下村明子, 南坂 尚, 中嶋隆彦, 三輪重治, 林 伸一, 井村穰二. 膵癌細胞の Spheroid 形成に関与する因子の網羅的遺伝子発現解析. 第 105 回日本病理学会総会; 2016 May 12-14; 仙台.
- 12) 植田寛生, 高木康司, 下村明子, 辻本紗織, 米田千里, 南坂 尚, 中嶋隆彦, 三輪重治, 林 伸一, 井村穰二. 大腸癌の浸潤に関与している因子の探索. 第 105 回日本病理学会総会; 2016 May 12-14; 仙台.
- 13) 畠野真帆, 下村明子, 南坂 尚, 中嶋隆彦, 三輪重治, 林 伸一, 酒井 剛, 井村穰二. 乳癌における細胞極性には Tight junction が関与しているのか?. 第 105 回日本病理学会総会; 2016 May 12-14; 仙台.
- 14) 辻本紗織, 植田寛生, 下村明子, 古田理佐子, 高木康司, 南坂 尚, 中嶋隆彦, 三輪重治, 林 伸一, 井村穰二. 大腸癌の相互結合性と細胞極性を規定しているのは何か?. 第 105 回日本病理学会総会; 2016 May 12-14; 仙台.
- 15) 古田理佐子, 米田千里, 下村明子, 辻本紗織, 畠野真帆, 南坂 尚, 中嶋隆彦, 三輪重治, 林 伸一, 井村穰二. 膵臓癌では Laminin-5 $\gamma$ 2chain が浸潤を制御しているのか?. 第 105 回日本病理学会総会; 2016 May 12-14; 仙台.
- 16) 米田千里, 古田理佐子, 辻本紗織, 下村明子, 畠野真帆, 南坂 尚, 中嶋隆彦, 三輪重治, 林 伸一, 井村穰二. 浸潤性胆道癌培養細胞の樹立と浸潤能を制御する因子の捕捉. 第 105 回日本病理学会総会; 2016 May 12-14; 仙台.
- 17) 山本真樹子, 高木康司, 南坂 尚, 西田健志, 八田秀樹, 三輪重治, 中嶋隆彦, 林 伸一, 上田善彦, 井村穰二. イタイイタイ病における腎病変は近位尿細管障害だけに限局しているのか?. 第 105 回日本病理学会総会; 2016 May 12-14; 仙台.
- 18) 早川智絵, 干川晶弘, 井村穰二, 林 直美, 岸理恵子, 半田瑠美子, 上野隆彦, 小池淳樹. 客観的分類に基づいた胆汁細胞判定の試み. 第 57 回日本臨床細胞学会総会; 2016 May 28-29; 横浜.
- 19) 南坂 尚, 吉井智美, 浜田桂司, 小梶恵利, 木屋千恵子, 堀 隆, 中嶋隆彦, 三輪重治, 林 伸一, 井村穰二. 心臓カテーテル検査時に採血した血液中に腫瘍細胞を認めた胃癌症例の一例. 第 33 回日本臨床細胞学会北陸連合学会術集会; 2016 Sep 3; 富山.
- 20) 井村穰二, 下村明子, 南坂 尚, 中嶋隆彦, 三輪重治, 林 伸一. 膵癌における浸潤機構の解明-InterLeukin-32 の関わり. 第 27 回日本消化器癌発生学会総会; 2016 Sep 15-16; 鹿児島.
- 21) 井村穰二, 高木康司, 下村明子, 南坂 尚, 中嶋隆彦, 三輪重治, 林 伸一, 西田健志, 八田秀樹. IL-32 は膵癌細胞の浸潤能を制御している. 第 75 回日本癌学会学術集会; 2016 Oct 6-8; 横浜.
- 22) 小梶恵利, 西田健志, 井村穰二. SMAD4 は膵癌細胞の Spheroid 形成に関与するのか. 第 75 回日本癌学会学術集会; 2016 Oct 6-8; 横浜.
- 23) 中嶋隆彦, 西田健志, 八田秀樹, 南坂 尚, 三輪重治, 林 伸一, 井村穰二, 野本一博. 子宮内膜症を背景とする類内膜腺癌を膣と直腸に異時性に発症した一例. 第 62 回日本病理学会秋期特別総会; 2016 Nov 10-11; 金沢.
- 24) 小梶恵利, 堀 隆, 木屋千恵子, 林 伸一, 酒井 剛, 濱島 丈, 石井陽子, 笹原正清, 井村穰二. 胸水中に腫瘍細胞が出現し由来の同定が困難であった TTF-1 陽性乳癌の一例. 第 55 回日本臨床細胞学会秋期大会; 2016 Nov 18-19; 別府.
- 25) 真鍋高広, 三輪武史, 坂東 正, 清水哲郎, 井村穰二, 塚田一博. 褐色細胞腫の 2 切除例. 第 78 回日本臨床外科学会総会; 2016 Nov 24-26; 東京.
- 26) 南坂 尚, 林 伸一, 中嶋隆彦, 三輪重治, 井村穰二, 野島孝之. 高度な軟骨化生を伴う腱鞘巨細胞腫が疑われた一例. 第 78 回日本病理学会中部支部交見会; 2016 Dec 12-17; 名古屋.

## ◆ その他

- 1) 井村穰二. イタイイタイ病のカドミウム曝露に係る病理及びアーカイブ資料の臨床病理学的活用に関する研究. 環

境省平成 27 年度「重金属等による健康影響に関する総合的研究」研究成果発表会；2016 Jan 8；東京。

- 2) 井村穰二．イタイイタイ病患者剖検例における病理学的研究．平成 28 年度イ病専門資料の情報発信に関する会議；2016 Feb 6；富山。
- 3) 八田秀樹，常山幸一，井村穰二． $\alpha$  リボ酸が有するデトックス効果－カドミウム障害の軽減効果の検証－．生理学技術研究会報告．2016 Feb；38：138-9。
- 4) 井村穰二．イタイイタイ病患者剖検例におけるカドミウム曝露に起因した臓器障害の病理学的研究．環境省平成 28 年度「重金属等による県交易用に関する総合的研究」研究成果発表会；2016 Dec 28；東京。